人間関係講座（グループ）第70回［春］

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	津村　俊充（南山大学人文学部心理人間学科教授） 中村　和彦（南山大学人文学部心理人間学科准教授）
概要	この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。１つの講座は２日間のプログラムで構成しています。 私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しいです」ということをよく聞きます。その理由の１つは、異なる欲求を持つ個人が関る場合、人数が多くなるほど、複雑になり難しくなることでしょう。また、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合は、話や課題の内容（コンテント）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることも理由の１つだと思われます。 この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。 ①グループの中で他者と関る自分の特徴に気づく ②「コンテント」と「プロセス」とは何かを理解する ③グループの中での人間関係（グループ・プロセス）に目を向ける重要性に気づく この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）、グループに関する理論の小講義、によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたいという方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。 なお、この講座（または過去の人間関係講座＜グループ＞）を終了された方を対象に、本年度からグループの人間関係をさらに深く学ぶための「グループ・プロセス応用講座」を開設します。（詳しくはこちらをご覧下さい）
日程	2007年6月30日（土）10：00～18：00、 7月1日（日）9：00～17：00
定員	36名
会場	南山大学　Ｄ棟
受講料	11,200円（税込）
講座報告 （アンケートより）	・プロセスを見ることの大切さ、そこに多くの気づきがあることをあらためて実感しました。日常生活でも、もっともっとプロセスを大切にしていこうと思います。 ・普段はまったく関わらないような人たちからの反応を受け取れて、いろいろなことを実感できた。 ・グループは生き物であることが、体験的にも理論的にもわかりかけたこと。 ・昨年までは多くのワークを行っていたということで、それを体験できなかったことは少し残念だが、本来はワークの体験が目的ではないので、グループの人間関係という意味では満足しています。特にGPでは様々な出来事がグループの中で置き、それを体験できるので単なるワークより気づきが深いと思いました。 ・グループとのかかわりから、すばらしいグループをつくることができた。実社会ではそううまくいかないと思うが、それでもひとつの理想グループをつくりあげる体験を得たのは大きな収穫だった。